





心が汚れている



多重露出撮影には物語がある

みのすけ



目次

心が汚れている	1
京都 “竹の径” で女性に道を聞かれる	7
モデルは縄文の女神（じょうものマドンナ）さんです	12
アイスコーヒーの苦みが 5000 年の眠りを目覚めさせる	17
お知らせ	21

心が汚れている

心が汚れている



高槻の今城塚古墳公園での話です。

今城塚古墳公園は今城塚古代歴史館と古墳公園が合わさった市民公園です。

この古墳は6世紀前半につくられた継体天皇（聖徳太子の曾祖父）の墓だといわれていますが、現在は全国でも珍しい古墳公園となり、高槻の人気エリアのひとつ。

天皇陵（大王墓）でありながら古墳の中を自由に歩きまわれる公園は“日本でもここだけ”。木立に覆われた墳丘にも入ることができ、まわりの芝生広場や堤では、散歩をしたり、スポーツをしたり、ピクニックをしたり、ゆったり過ごす憩いの場、遊び場として親しまれています。

私は古代歴史館を見学後、池の淵で写真を撮っていると小学校低学年の子供達5人が池に入ろうとしている。

池の柵には「この中には入らないで」と掲載されている。

一番体格が小さい子供には、この土手を滑り降りると、池に落ちるかも？ 本人も少し危険を感じているのか、私の方に不安感を投げかけている。

「柵を越えて池に降りたらダメだよ」と注意する。

一番体格の大きい子供が「どうしてダメなの」と聞いて来る。

子供は「池に大きな魚がいるので見に行くだけだよ」と言う。

私は子供達にただ単に入るなど言っても納得しないだろうと思えた。

咄嗟に「大王さんがこの池の鯉をイジメるものには、池に引きずり込むとおっちゃんに言った」

地元の子供達なので大王様を知っているらしく、「おじさん大王さん見たの」と聞いて来た。

「もちろん、会ったよ」と答え、歴史館の中で今城塚古墳時代の大王の鎧兜と壺の多重露出写真をうやうやしくして見せた。



DSC\\

「わあ、本当に鎧が写っている」

子供達は大王様を探す事に興味に移り、私が見たと言った埴輪展示場へと駆けて行った。

まあ何とか子供を危険から救った気分になった。

暫くすると子供達は私の所に帰って来て、「おっちゃん大王さんはいないで」と言う。

私はとぼけて「おかしいなあ」、おっちゃんには見えただけなあ。

「よし一緒に探そう」と埴輪展示場へと付き合った。

埴輪の家のそばで「ここに居てはるわ」

子供たちは「見えない。見えない」と騒ぐ。

私は「本当に見えないの」ととぼける。

「ほんなら、見せたるわ」と言いながら、多重露出にセットする。

「大王さん撮らせてもらいます」と言い、大王様と埴輪の家を多重露出撮影をする。

「ほら写っているやん」

子供達は「ほんまや、大王さんや」と笑っている。



すると一番体格の大きい子供が「おっちゃんには見えて、僕らには何故見えないの」と聞いて来た。

私はすかさず「そらおっちゃんの心がきれいからや」と答える。

子供は「僕らの心もきれいやで」と反論する。

「きれいかったら見えるのに不思議やなあ。お父さん、お母さんや先生の言う事をよく聞いているか?」と質問する。

その子供は「うう～」と声を出して頭を振っている。

他の子供が「こいつ昨日怒られとった」と言う。
「怒られたのなら心が汚れているわ」と私は笑いながら答える。
子供達も笑っている。
遠くから会社の終業ベルが聞こえて来た。
「おっちゃんは帰るから、みんなも帰る時間やろ。
人の言う事をよく聞いておっちゃんみたいなきれいな心になりや」
「分かった。バイバイ」と子供達は笑いながら帰って行く。

子供時代の心は綺麗けど、自我が芽生えるときれいな心も欲に染まって行く。
しばらく池の淵を歩き公園の出口に着くと、壺の傍に縄文の女神が見えた。
「いつまでもきれいな心を捨てないでね」と皮肉のお返しが聞こえた。



京都“竹の径”で女性に道を聞かれる

京都“竹の径”で女性に道を聞かれる



京都・向日市の竹の径へ、青々と茂る竹を撮りに行きました。

駅に着いた時は晴れていたのに竹林公園まで来ると、ぼつりぼつりと雨が振り出しました。　　どうも私は雨男らしい。

雨が本降りに成りだしたので、雨の掛からない笹の葉が沢山茂っている竹藪へと駆け出しました。　　頭上では雲間に雷光が光っている。突如、怒鳴られているような雷鳴が耳をつんざき、雷光で目が眩んだが、何とか雨が避けられる所までたどり着いた。

暫くすると雨が止み空気も清浄され、竹藪が青々と輝いて天上世界に居る錯覚に酔って来る。

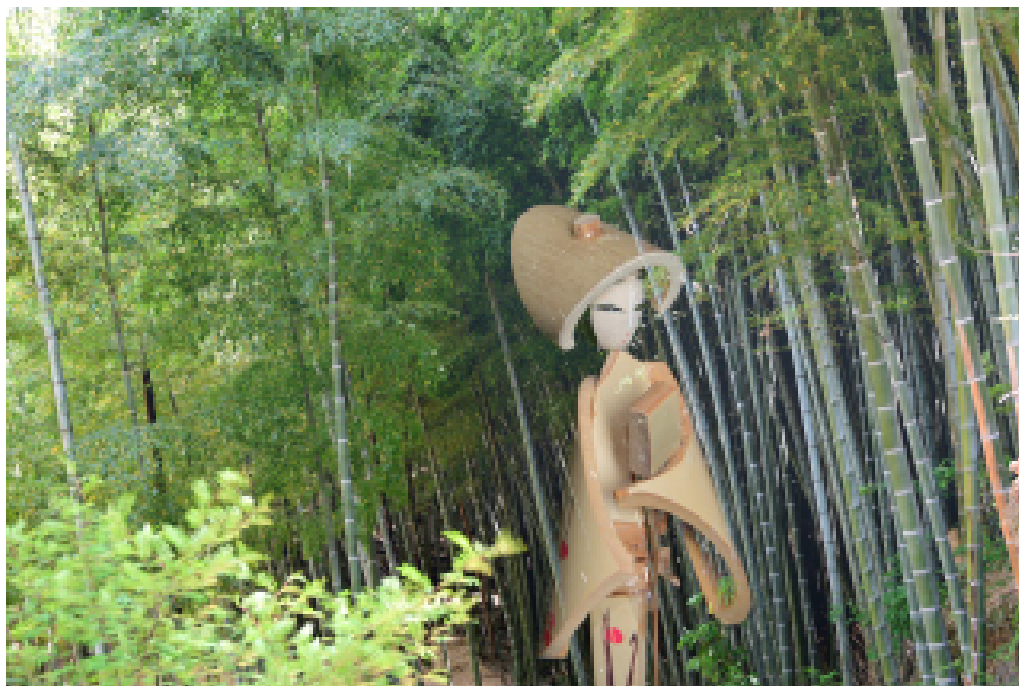
竹を少時間撮影し、他の竹藪に移ろうとしたら後ろから女性の声でした。

「もし、あにさん道を教えてくださいな」と声がする。

振り向くと鳥追い女がいて、江戸言葉で道を聞かれている。

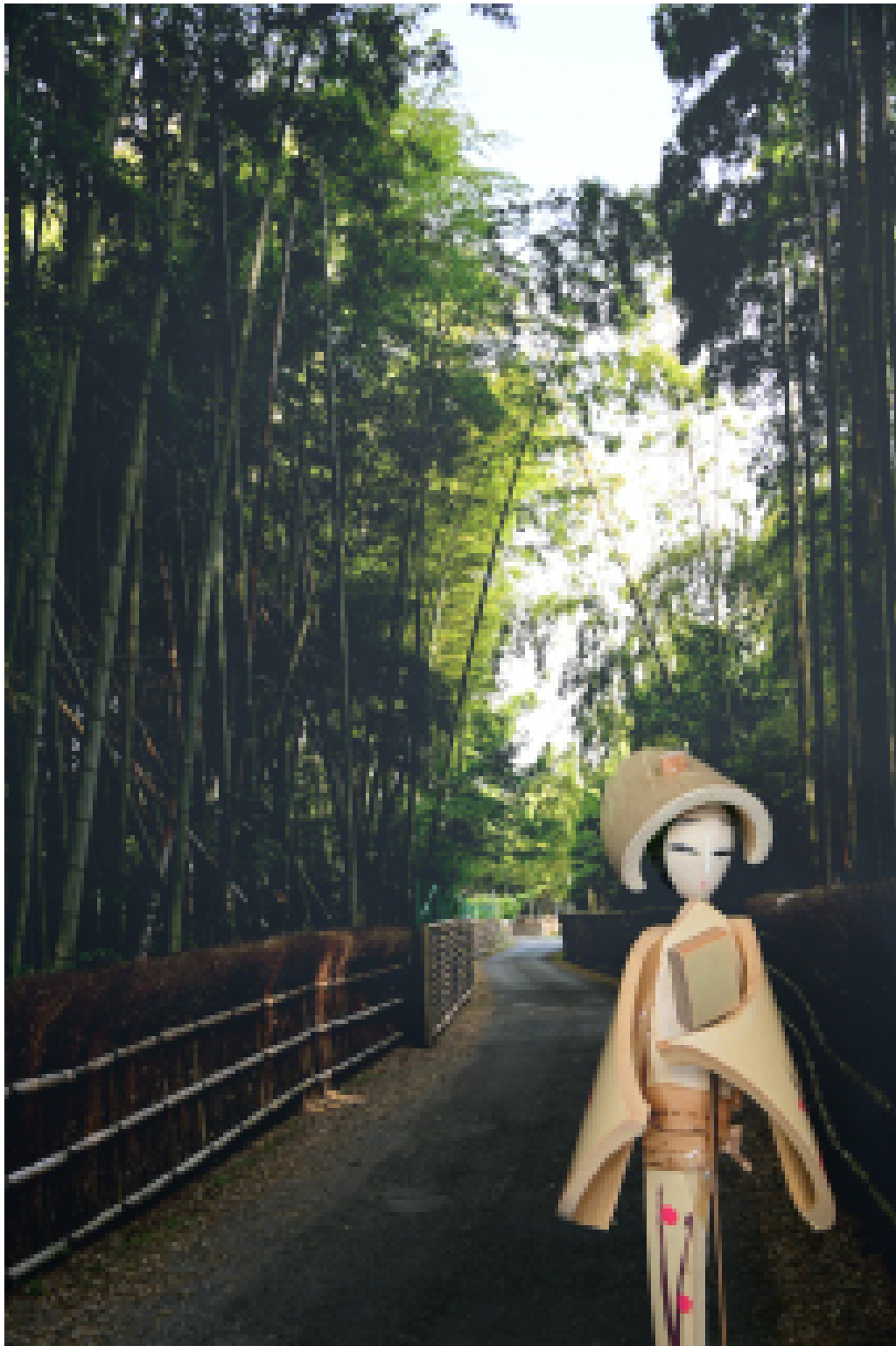
鳥追い女はテレビの水戸黄門で由美かおるが女旅芸人と忍者（くノ一）に扮していたのを思い出す。

ファンなのでよく見ていたが、そんな女性が目の前に現れている。
何故竹藪で鳥追い女に出会うのか、頭が混乱したが、渋皮のむけたべっぴんを前にしては思考力が麻痺して考える力が抜けて来る。
もう思考力はやけのやんぱち状態だ。
旅笠から見える髪は鳥の濡れ羽色、三味線を抱き、たおやかな柳腰で昔風の言葉で、小股の切れ上がった女がそこに居た。何故か私のボケて久しい頭からは昔の言葉がよどみ無く出て江戸時代に入っている。
粋な女の手前、伊達男を演じたいが「思考力が空回りして私の口からは「はあ」しか出て来ない。
女は「あたしは江戸から京に来て、上方に向かっていきます。淀川沿いの俳人・与謝蕪村さんに会いに行きたいので淀川はどちらかえ」と聞いて来る。

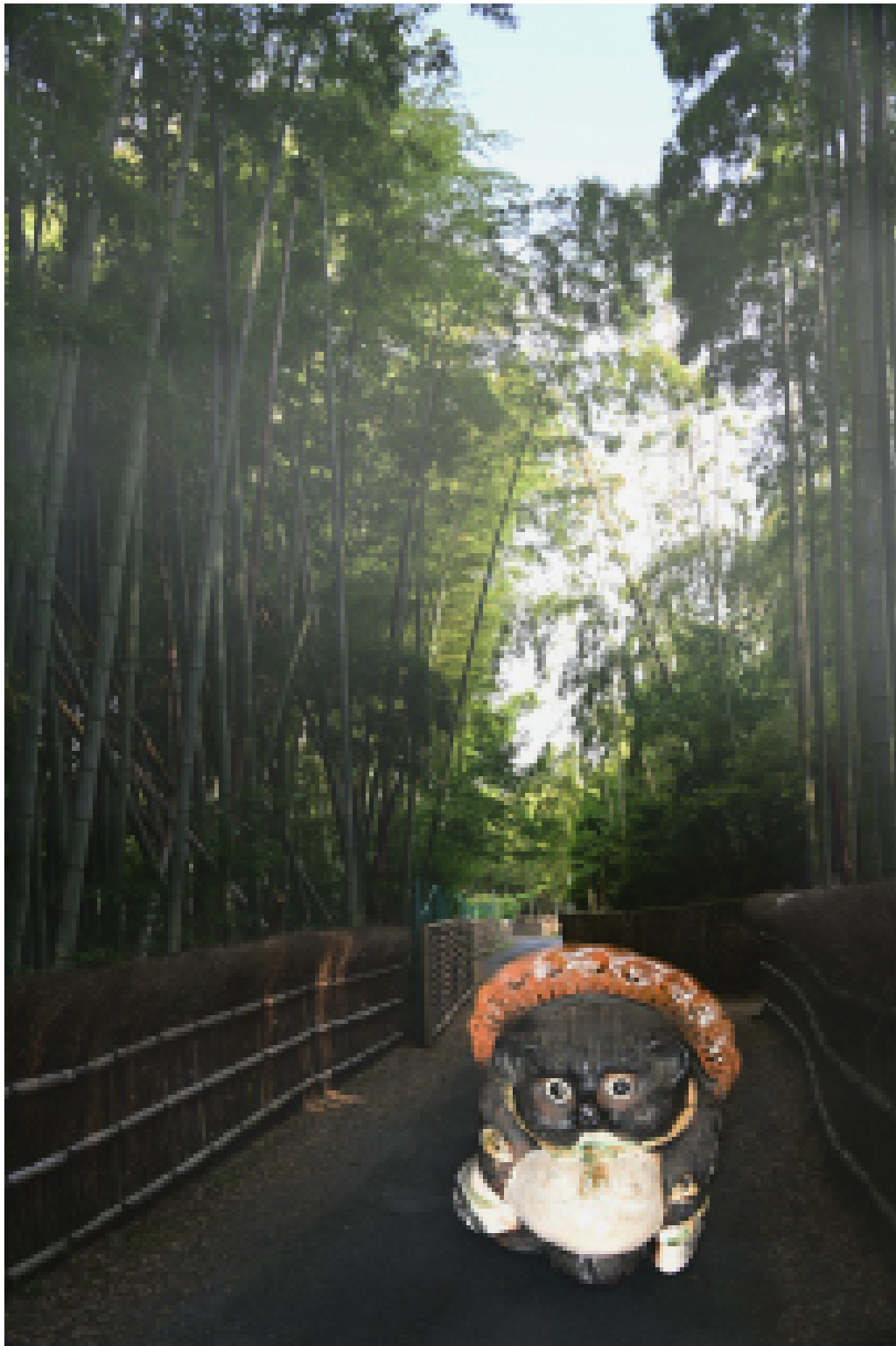


D S C \ \

与謝野蕪村は淀川沿いの毛馬水門に与謝野蕪村の碑があったので淀川沿いに行く事を教えた。とりあえず竹藪から出て道を教えやすい所まで一緒に出ることにした。
「何故与謝野蕪村さんをご存じなのか」と女には質問をして、現状を探ることにした。
「蕪村さんとは一緒に旅をしたんです。楽しかったわ」と笑顔になる。
「蕪村さんの作品のアイデアはほとんど自分が出したものだ。会ったらご馳走をしてみようわ」と悪戯っぽい顔になる。
楚々とした振舞に色気を感じる。



竹の径の出口付近まで来るとお礼に飲みに行こうと誘われる。
久しぶりに三味線を弾きたいし誰かに聞いてもらいたいとあだっぼく懇願された。もう私の心はこの鳥追い女に蹂躪されている。
私は色々考えを張り巡らし、冒険心を絞り出して「いいよ」と言うために振り向いた。



DSC\\

振り向くと鳥追い女は居ない。そこには狸が居た。
「くそう アイツだったのか」と私は唸った。

モデルは縄文の女神（じょうもんのマドンナ）さんです

モデルは縄文の女神（じょうもんのマドンナ）さんです。



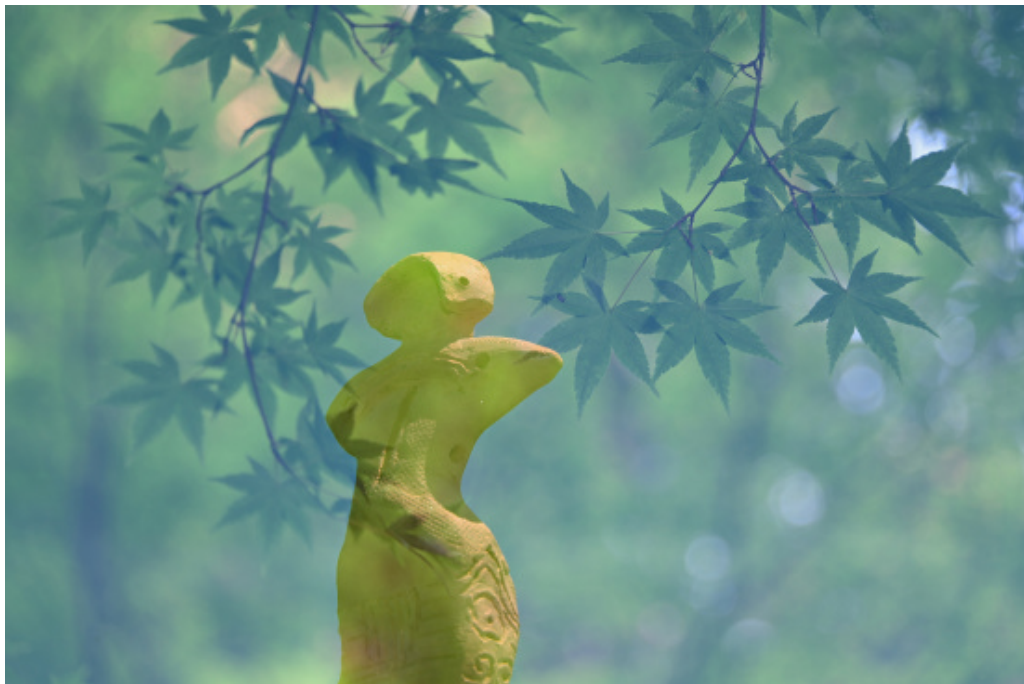
満月を見るポーズに女性の永遠の神秘性が漂っていると思われませんか？



女性の心の奥底に潜む魔性を桜の花びらを逆光で黒くする事で表現しました



新緑の背景色を変化させて、縄文の女神さんを撮る。グリーンからブルーへ多重露出撮影で空色のブルーと掛け合わせる。比較明合成で幻想感を演出



少しグリーンを入れたかったので濃い所と多重露出。今度は加重平均で重ねる。



新緑はやっぱり緑だと思い、新緑と女神を強調する。



もみじの数を増やし、少し緑を深くする。多重露出は加重平均が基本



縄文の女神と新緑の色かぶりを少なくする為に暗部で重ねる。

アイスコーヒーの苦みが5000年の眠りを目覚めさせる

アイスコーヒーの苦みが**5000**年の眠りを目覚めさせる



縄文の女神さんと一緒に梅田の風景を撮影する。

5月末なのに猛暑、老体が軋む。

喫茶店を見つけ休憩。

麴焙煎とメニューに掲載されている。

珍しさでアイスコーヒーを注文し、店主にコーヒーの撮影許可をもらい縄文の女神と一緒に撮る。

乾いた喉にアイスコーヒーが浸り、ほのかな麴の香りと少しの甘みを楽しむ。

疲れ果てた私の思考力は縄文の女神の無表情に 5000 年前を夢見する。
この美しい女神は 5000 年の長い歴史を飛び越え、何を伝えたい。
オリジナルの縄文の女神は山形県舟形町の東北自動車道の建設道路調査中に偶然に発見された様だ。
私の持つ土産品の無表情の女神は真実を語らない。

地球にとって、人間の知恵は 5000 年間貢献したのか述懐する。
自然環境破壊や戦争でこのすばらしい地球が住めなくなる日が近づく気配が大。
我々巷の人間にはどうする事も出来なく、無表情になって行く。
アイスコーヒーの苦みが喉元を冷やし通り過ぎて行く。
無表情な女神が私を見つめている。



お知らせ

お知らせ

オリジナル写真は写真素材サイトの PIXTA で販売中です。

興味のある方は作者名 [みのすけ](#) で検索して頂ければ幸いです。

よろしければ是非ご高覧ください。

心が汚れている

著 みのすけ

制作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
